

昔存在した「橋守^{はしもり}」をご存知でしょうか？ 灯台を住み込みで維持管理する「灯台守」のように、専属で特定の橋りょうを“守る人”のことで。時代は変わり、鉄道構造物は高齢化が進む一方、日本の人口は減少局面に入り、労働力の確保はより一層難しくなることが予想されています。しかし、幸いにして、コンピューターやインターネット、センサーなどの技術は著しい発展を遂げています。したがって、「橋守」の魂を受け継ぎ安全を確保しつつ、それらの技術を上手に使うって、鉄道構造物の維持管理を省力化していかなければなりません。昨年12月に発

足した画像・IT研究室とも連携して、皆様のお役に立てる技術開発を進めてまいります。

来月号の特集は「実用的な鉄道防災技術」です。鉄道は日々の安全、安定輸送が第一なのはもちろんなのですが、“たまに”しか発生しない気象外力から鉄道、ひいてはお客さまを守ることも求められます。現在、鉄道総研が取り組んでいる「鉄道を災害から守る実用的な技術」を紹介しますので、どうぞご期待ください。(N. O.)